

こんにちは 牛越です

【第162回】
能登半島地震と
国際芸術祭



大町市長
牛越 徹

今年の冬は、暖冬と言われましたが、幸い雪が降り寒さも厳しく、市民スポーツ祭冬季大会が開催されました。2月4日にスケート大会が、6年ぶりに西公園の特設リンクで開かれ、子どもやベテラン選手が、丁寧に手入れされた氷の上を滑走し、タイムを競いました。また、11日にはスキー・スノーボード大会が、3年ぶりに鹿島槍スキー場で開催され、80人を超える選手が大回転のレースに挑戦しました。冬の大町ならではのスポーツが、市民の健康増進に大いに寄与することを期待します。

さて、能登では地震からの復旧・復興が始まっています。大町市と同様に、北川フラムさんが総合ディレクターとして携わり、奥能登国際芸術祭に取り組む珠洲市に対し、市立大町総合病院のDMAATや、北アルプス広域消防本部の緊急消防援助隊が急行して活動を展開し、市では民間団体の協力で飲料水を空輸しました。

昨年11月に閉幕した芸術祭の多くの作品も損壊を免れず、北川総合ディレクターもメディアで被災地への思いを「奥能登国際芸術祭に足を運んだことのある多くの人から、心配や励ましの声をいただいているが、実際に珠洲を歩いた人

たちの被災地に対する心の寄せ方には現実感がある。今後も芸術祭をきっかけとした人と人、人と土地のつながりを大切にしていくと語っておられます。芸術祭の参加作家の皆さんは、土地の魅力を表現する作品の制作過程で、触れ合いや協働によって人と人の強いつながりができ、集落の方々と連絡を取り支援に取り組んでいるとのことです。これまで珠洲市が芸術祭を通じて培った多くの人の結び付きが、今、この地域を思う心となつてさまざまな形の支援に表れているのです。

北アルプス国際芸術祭は、市さまざま課題をアートの力で解決する「新たなまちづくり」と位置付けており、開催目的の一つには「市民参加を地域づくりの原動力とする」と掲げています。珠洲市のように、芸術祭により作家や来訪者と関わりを深め、多くの人と深く触れ合う機会となるよう、しっかりと準備を進めてまいります。

市民の皆様には、鑑賞にアート会場を巡ることに加え、ボランティアとして作品制作や会場の運営にご参画いただいたり、飲食店や商店などの経営を通じて多くのお客様をお迎えいただくようお願いいたします。